

Ⅱ 事業の概要（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

平成30年度の事業実施に当っては、市場の金利低下によって基金の利息収入確保が厳しくなっていることから、健全な運営のための収支均衡や公益法人としての収支相償に配慮しつつ、公益事業の安定的な継続に努めるよう取り組んだ。

漁業振興公害対策事業では、県内各地の浜の再生プラン等の県内沿岸漁業の振興策への支援をするとともに水産基盤施設の改善や漁村の活性化が図れる支援等を行った。

栽培漁業推進事業では、水産資源の維持増大のため、種苗受入尾数等の事業規模の維持に努めるとともに、種苗生産機関、漁業者団体、行政機関等との連携を図った。

基金運用においては、漁業振興基金のうち2つのユーロ円債が平成30年9月と31年3月に償還となったが、9月償還のものについては、償還時の金利状況を判断し、大阪府債(20年、金利0.668)を購入した。

なお、2つの公益目的事業である漁業振興公害対策事業、栽培漁業推進事業を安定した財源で今後10年間実施するため、平成31年度の期首より基本財産の組換えを行うことを平成31年3月1日の評議員会で決定している。平成31年度の期首の両基金の基本財産は、漁業振興基金10億1千6百万、栽培基金18億6千8百万円となる。

1 漁業振興公害対策事業

漁業振興基金基本財産運用収入によって、事業費（助成額）14,825 千円で、沿岸漁業振興に係る次の事業を実施した。

実施事業一覧

事業名	地域振興事業	広域振興事業
1 漁業振興対策事業 (13,488 千円)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 種苗放流事業 ・ 漁業施設整備事業 伊豆漁協等 10 件 (12,668 千円) ・ 漁港関連整備事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重要魚種増殖対策事業 県桜えび組合 (300 千円) ・ 磯焼け対策事業 磯焼け対策協 (200 千円) ・ 漁業開発調査指導事業 県漁連 (320 千円) ・ 種苗放流事業
2 漁業公害対策事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漁場監視対策事業 ・ 公害対策関連事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公害対策等
3 漁業環境保全対策事業 (50 千円)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海底清掃事業 ・ 障害物除去事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広域的海岸・海中清掃事業 浜名湖をきれいにする会 (50 千円) ・ 地先漁場保全対策事業
4 教育広報事業 (1,287 千円)		<ul style="list-style-type: none"> ・ 漁業者等育成事業 県漁連 (1,062 千円) ・ 広報事業 県漁連 (225 千円)
合計 14,825 千円	12,668 千円	2,157 千円

2 栽培漁業推進事業

第7次基本計画に基づき、栽培漁業基金基本財産運用収入、県補助金、漁業者及び市・町の負担金等を財源とした当初事業予算 59,655 千円で、指定法人が行なう「放流効果実証事業」としてマダイ・ヒラメの中間育成・放流事業を、振興基金が自主的に行う「地域放流効果普及事業」としてクルマエビの放流事業を行った。

放流効果実証事業のうちマダイ放流事業は、伊豆、中部、榛南の3地域でそれぞれ地域栽培漁業推進協議会を設置し、資源増大推進普及事業（補助金事業）及び地域栽培推進事業（負担金事業）として実施した。二つの予算事業は一体的に実施し、効率的な事業実施に努めた。本年の静岡県温水利用研究センター（本所、沼津分場）のマダイ種苗生産については、本所の生産が当初、不調であったために、中部地域の種苗供給については、好調であった沼津分場より供給した。その後、本所も生産が好調となり本年は、3地域への計160万尾の種苗供給計画は達成された。中間育成については、伊豆・中部地域は極めて順調に行われ、放流は近年最高の放流結果となったが、榛南地域については、台風等の影響により中間育成の歩留りが悪く、計画を下回る放流となったが、県全体での放流は111万尾、計画の105.5%となった。

放流効果実証事業のうちヒラメ放流事業は、榛南地域においては地域栽培漁業推進協議会を設置し、資源増大推進普及事業（補助金事業）及び地域栽培推進事業（負担金事業）として実施し、沼津地域においては漁業者・市の負担金及び栽培漁業基金基本財産運用収入を財源として漁業振興基金から地元の沼津市漁業協同組合青壮年部連絡協議会へ委託し実施した。本年のヒラメの種苗生産は好調で、計画どおりの種苗が確保され、榛南については中間育成も歩留りが良く、計画放流数を上回る結果となり、沼津についても中間育成は比較的順調で、放流は計画どおりの結果となり、県全体での放流は35万尾、計画の109.3%となった。

地域放流効果普及事業として行ったクルマエビ放流事業は、浜名漁協からの要望と県が進めているDNA解析による放流効果調査を支援するとともに、浜名湖の重要水産物であるクルマエビの放流技術の改善、放流効果の普及を図るため計画どおり180万尾の直接放流を実施した。

なお、平成23年の東日本大震災に関連した浜岡原発の運転停止の影響によって、静岡県温水利用研究センターではそれ以前と同様の温排水等の使用は困難になっているが、国・県・電力事業者等の努力によって温水ボイラーや海水供給ポンプ等の整備・運転等が継続されてきている。平成30年度も県・電力事業者等の努力によって前年度までと同様の種苗生産体制が維持された。

(1) 放流効果実証事業

ア マダイ放流事業

(ア) 伊豆地域

伊豆地域については、静岡県温水利用研究センター沼津分場からマダイ種苗を計画どおり 90 万尾が供給された。当地域の中間育成の歩留りは近年最高の結果となり、放流は計画の 120%、709 千尾となった。

また、沼津市久料幼稚仔保育場における放流後の減耗防止と定着率向上のための給餌と施設管理及び集魚状況調査では、久料沖の幼稚仔保育場の中でも岸寄りの海域とし、地元青壮年部等が設置した粗朶礁による滞留効果が認められた。

(イ) 中部地域

中部地域については、静岡県温水利用研究センター本所の生産が当初不調のため、沼津分場より計画どおりのマダイ種苗 20 万尾が供給された。中部地域の放流尾数は合計 156 千尾となり、計画の 131 千尾の 119%となった。

(ウ) 榛南地域

榛南地域については、静岡県温水利用研究センター本所からマダイ種苗 50 万尾を計画どおり供給された。しかし、中間育成は台風等による要因で、歩留りが悪く、放流は計画の 74.4%に止まった。

表 事業別・地域別マダイ中間育成・放流結果一覧

地域別・中間育成・放流結果（資源増大推進普及事業、地域栽培推進事業の合計）

魚種	マダイ						
	伊豆				中部	榛南	合計
対象海域	伊豆				小川	地頭方	—
中間育成場	網代	田子	内浦	計	小川	地頭方	—
中間育成尾数(千尾)	405	225	270	900	200	500	1,600
沖出し時全長(mm)	28	26	29	—	35	24～34	—
放流尾数(千尾)	329.2	187.0	192.3	708.5	155.9	244.1	1,108.5
放流時体長(mm)	64	58	78	—	61	46～52	—
実施時期	6～9月						—

事業別・中間育成・放流結果（資源増大推進普及事業）

魚種	マダイ						
	伊豆				中部	榛南	合計
対象海域					小川	地頭方	—
中間育成場	網代	田子	内浦	計	小川	地頭方	—
中間育成尾数(千尾)	187.5	97.5	165.0	450.0	—	350	800.0
沖出し時全長(mm)	28	26	29	—	—	24～34	—
放流尾数(千尾)	152.4	81.0	117.5	350.9	—	170.8	521.7
放流時体長(mm)	64	58	78	—	—	46～52	—
実施時期	6～8月						—

事業別・中間育成・放流結果（地域栽培推進事業）

魚種	マダイ						
	伊豆				中部	榛南	合計
対象海域					小川	地頭方	—
中間育成場	網代	田子	内浦	計	小川	地頭方	—
中間育成尾数(千尾)	217.5	127.5	105	450.0	200.0	150.0	800.0
沖出し時全長(mm)	28	26	29	—	35	24～34	—
放流尾数(千尾)	176.8	106.0	74.8	357.6	155.9	73.3	586.8
放流時体長(mm)	64	58	78	—	61	59～68	—
実施時期	6～8月						

イ ヒラメ放流事業

(ア) 榛南地域

榛南地域では、静岡県温水利用研究センター本所から当初計画どおりヒラメ種苗 42 万尾を受入れた。本年は、飼育が順調に行われ、大きな疾病による減耗も無く、榛南地域の放流尾数は合計 310 千尾となり、計画の 280 千尾の 110.7%になった。

(イ) 沼津地域

沼津地域では、静岡県温水利用研究センター本所から当初計画どおりヒラメ種苗 6 万尾を受入れた。本年の中間育成の歩留りは、ほぼ目標値となり、沼津地域の放流尾数は合計 39.6 千尾で、計画の 40 千尾の 99%となった。

表 事業別・地域別ヒラメ中間育成・放流結果一覧

地域別事業別・中間育成・放流結果

魚種	ヒラメ				
	榛南			沼津市	合計
対象海域					
事業名	資源増大推 進普及事業	地域栽培 推進事業	計	—	—
中間育成場	温水センター		—	内浦	—
中間育成尾数(千尾)	220	200	420	60	480
受入れ時全長(mm)	36	39	—	34	—
放流尾数(千尾)	156	154	310	39.6	349.6
放流時体長(mm)	62～81	62	—	42、63	—
実施時期	4～5月		—	4～5月	—

(2) 地域放流効果普及事業 (自主事業)

ア クルマエビ放流事業

浜名湖において、平成 30 年 8 月に静岡県温水利用研究センター本所産の平均 13.4 mm 種苗を白洲地先に 30 万尾、平均 14.3mm 種苗を庄内湾奥に 150 万尾、合計 180 万尾の直接放流を計画どおりに行った。

表 地域放流効果普及事業(クルマエビ)の中間育成・放流結果

放流日	放流先	放流尾数 (万尾)	平均体長 (mm)
H30.8.29	浜名湖(白洲)	30	13.4
H30.8.29	浜名湖(庄内湾奥)	150	14.3
計		180	—